平成28年４月の地震で大きな被害を受けた熊本県。被災地では着々と復興が進んでおり、観光客の出足も戻りつつあります。今回の特集では、観光地で復興に向けて頑張っている人たちの「今」を伝えます。

熊本、復興の今―

熊本地震による被害とその後

全国に誇る名城熊本城、噴煙が地球の息吹を感じる阿蘇山、美しい島々が織り成す天草の景色……。名高い景勝地に恵まれた熊本県は、国内外から多くの人々が訪れる観光地です。

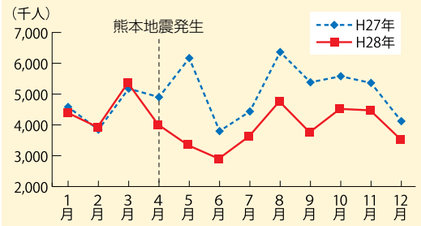
平成27年にはプレミアム付き旅行券が発行され、万田坑（荒尾市）と三角西港（宇城市）が世界遺産に認定されると、宿泊客数が過去10年で最高を記録しました。

ところが、一昨年4月に熊本地震が発生。熊本城が大きく損壊し、阿蘇大橋の崩落など観光地でも甚大な被害がありました。地震から1年が過ぎると、被災した観光施設や宿泊施設が少しずつ営業を再開。復興キャンペーンやPR施策により観光客数は徐々に回復してきたものの、地震前の水準には戻っていません（表1）。

地域経済を活性化し復興を加速するためには、観光客の誘致は欠かせません。また、大きな被害を受けた熊本城や阿蘇地域は、熊本のシンボルとも言える場所。後世に残し、郷土への誇りと愛着を育むためにも、観光地の復興は大切なことです。

このような中、平成29年に熊本城を訪れた観光客が、9年ぶりに200万人を突破するなど、明るい話題も聞こえてきました。深い傷跡が残る場所に「現状を知りたい、応援したい」という人々が続々と集まってきています。そこには、観光地の現状と魅力を伝える県民の姿がありました。

観光客の推移　（表1）



修復中の熊本城を見てほしい

「本丸の中に入れないから、ガイドそのものが無くなるんじゃないかと思いました」

そう話すのは「くまもとよかとこ案内人の会」副会長の多堀亞夫さん。熊本地震で観光ボランティアガイドの仕事にも大きな変化がありました。

「以前は天守閣や宇土櫓、本丸御殿などを中心に案内していましたが、今案内できるのは城の外回りだけ。それでもたくさんの人が城の修復状況を見に来てくれます」

ガイドの申し込みがあればできるだけ断らないと話す多堀さん。その姿勢の裏には、復興を支えてくれる人たちへの感謝の思いがありました。

「被害と修復の状況を今こそ見ていただきたいですね。天守閣を覆うシートは網目状で、中の作業状況が見やすくなっています。復興過程を見てもらい、歴史や文化に触れながら熊本らしい案内をすることが、支えてくれた皆さんへの恩返しだと思っています」

1_複数箇所で石垣が損壊（写真は戌亥櫓）2_修復中の熊本城を案内するボランティアガイド　3_同じ位置に復元するため整理された崩れた石垣

ボランティアガイド
多堀亞夫（たぼりつぐお）さん

風評被害に負けない

「地震後、2週間ほどは道路や電気などのライフラインが使えず、観光施設は休業状態でした」と阿蘇市観光協会の稲吉淳一会長は振り返ります。営業を再開できても、風評被害が広がり集客に苦労したそうです。客足を取り戻すためにインターネットを使って「阿蘇は安全ですよ」と正しい情報を発信していますが、観光客数は地震前の5～7割しか戻っていません。

「最近の観光客はインターネットで情報を集める人がほとんどです。その人たちに足を運んでもらうには、信頼度の高い口コミ情報が最も効果的」と稲吉会長は説明します。

「県民の皆さんもぜひ阿蘇に来てください。自然も大きなダメージを受けましたが、生まれ変わろうとする生命力が感じられ、以前とは違った表情が見られます。そこで見た景色や感動の思いを、私たちと一緒に発信してもらえたらうれしいです」

阿蘇市観光協会会長
稲吉淳一（いなよしじゅんいち）さん

一人一人が正確な情報発信を

取材をとおして、観光地の人々の復興にかけるひたむきな姿勢と深い郷土愛を感じることができました。熊本城も阿蘇地域も、こうした人々の思いを糧に、少しずつ元の姿を取り戻しています。

熊本地震から約2年、復興は道半ばです。私たち一人一人が被災地の現状を知り、正しい情報を発信していくことも復興の力になります。古里への愛着と誇りを育み次世代へ受け継ぐことが、明るい未来をつくる「創造的復興」への近道なのかもしれません。

1_倒壊した拝殿（阿蘇神社）2_崩落した阿蘇大橋と土砂崩れの跡（南阿蘇村）3_地盤沈下で寸断された道路も現在は通行できる（阿蘇市）